

平成24年（行ウ）第15号東海第二原子力発電所運転差止等請求事件  
原告 大石 光伸 外265名  
被告 国 外1名

準備書面（9）  
（被害論準備書面（4））  
福島第一原発事故による農業被害補論

2014年（平成26年）2月13日

水戸地方裁判所 民事第2部 御中

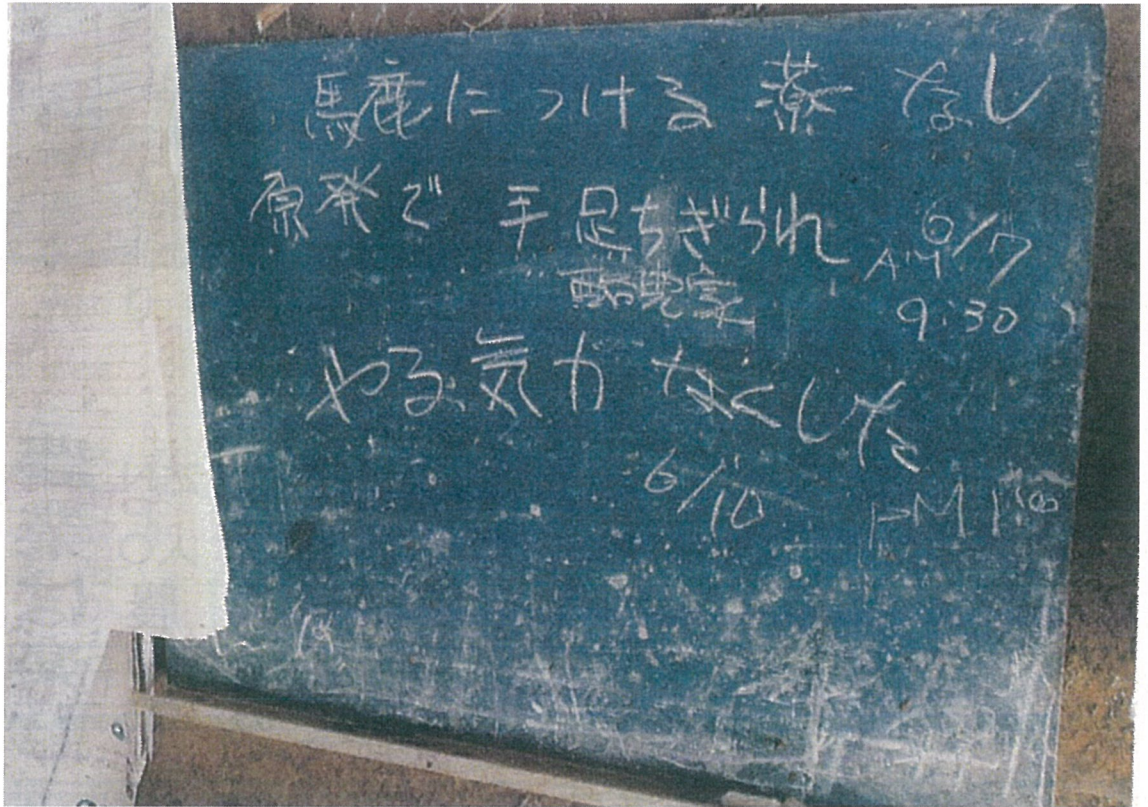
原告ら訴訟代理人  
弁護士 河 合 弘 之  
外

原告らは、準備書面（7）において、福島第一原発事故による農業被害について論じた。そのうち、有機農業を営む農家の被害についても主張したところであるが、その被害の詳細について別紙のとおり補充主張する。

こうした被害の実態に触れるたびに感じるのは、いくら「低線量」で「ただちに人体に影響はない」などといっても、農業者にとってはそれまでの長年の人生をかけて取り組んできた営みを全て壊されるに等しい打撃を受けるということである。

また、そうした被害を受け自ら命を絶った農業者も少なくないことを再認識する必要がある。

ここで紹介したいのは、平成23年6月11日、自らの命を絶った相馬市の酪農家についてである。「農民」という新聞の中では、次のように報じられている。



「50歳代の酪農家は原発事故以来、ずっと搾乳した原乳を捨て続けていた。負債も抱え、フィリピン人の妻は2人の子どもを連れて国に帰った。牛も手放し、すべてを失った男性は6月11日、牛のいなくなった牛舎で首をつって命を絶った。堆肥舎のコンパネの壁に白いチョークで「原発さえなければ」「仕事をする気力をなくしました」「残った酪農家は原発に負けずにがんばってください」と遺書と思われる言葉が書かれていた。さらに黒板には「原発で手足ちぎられ酪農家」と。」

残った農家も命を奪われたに等しい状況下で必死に生きている。それが農家の現実である。以上

## 別紙

### 農業の生産基盤に与えた測り知れぬ損害

#### 1 はじめに・・・被害は経済的損失だけではない

農作物の規制値をクリアすれば安全ということではない。

作物への放射能の移行が想像より低かったものの、土壌の汚染は消えた訳ではなく、生産者はそこで仕事する限り、放射線を浴び続ける。放射能の低減対策をとっているものの、簡単ではない。

#### 2 自己紹介

茨城県石岡市で有機農業を営んでいる。平飼いのニワトリ600羽、田畑3町歩で、米麦、野菜を年間を通し栽培している。消費者に直接送り届けている。原発事故で、若い世代で子育て中の家族を中心に約30世帯の人々が離れていき、現在も復活していない。

1970年、私が農業を志した年である。当時は、母乳からDDT、B4Cの有機塩素系農薬が、毛髪から水銀が顕出され、戦後の近代農業が早くも深刻な農薬汚染を引き起こした。このままではどうなるものかと、私は、化学肥料や農薬に依存しない農業、作物や家畜が健康に育つ農業として、有機農業の実践と研究を生涯のテーマとして、今日44年目を迎える。

3. 11の原発事故により、今は母乳から、尿から放射能が検出される時代となってしまった。原発政策を進めてきた国の責任である。

#### 3 豊かな森からの栄養(腐植)で支えられる農業と漁業

広葉樹の豊かな森から流れ出すいのちのもとになる腐植は、田畑を

潤すばかりでなく、河川や湖沼、干潟、海辺や海の生きものを豊かに育てる。この森・里・海は、その流域で暮らす人々の生産の場であり、生活の場である。

この森・里・海のいのちの連環の中に放射能をまき散らしたことは、私たち人間だけの健康被害だけでなく、多様な生物、微生物に多大な影響を与えた。

私たちの生産基盤＝生存基盤である森・里・海が危うくなってしまったことだ。

#### 4 有機農業（魚住農園の実践）現場からそのことを考える

##### 1) 落葉広葉樹の山からの落葉を集める－消費者との協同

－山からの栄養と微生物の収集

##### 2) 堆肥作り・・・落葉、モミガラ、雑草、平飼鶏糞で自然発酵

##### 3) 踏み込み温床で野菜の苗作り・・・山の落葉と米糠と水で、自然発酵熱を利用し、苗を育てる。

##### 4) 平飼養鶏・・・健康な飼育環境で、良質の卵を産む。良質の鶏糞堆肥。遺伝子組み換えでない地域自給のエサで健康な身体を作る。

##### 5) 良質の堆肥は、健康な作物を育てる。農薬や化学肥料は用いない。農薬や化学肥料はむしろ有害である。

##### 6) 農薬や化学肥料の散布されていない有機栽培の環境下では、病害虫は天敵によって見事にコントロールされ（例えばアオムシとアオムシサムライコマユバチ、アブラムシとナナホシテントウ、土壌病害は糸状菌や放線菌の放出する抗生物質などにより抑え込まれる）

##### 7) この森・里・海、有機農業の現場の生息域には全て微生物が関与している。この全ての循環の環の中に放射性物質が入り込み、微生物たちのDNAを傷つけたり、突然変異を起こさせているに違いない。

8) このことは、人間や家畜の腸内細菌にまでも影響を及ぼし、免疫力低下にまで影響を及ぼすに違いない。

5 原状回復せよ。できぬなら原発から撤退せよ

今でも止められぬ放射性物質の放出、東電と国は責任をもって放射能を回収し、原状回復せよ。回収も回復もできぬのなら原子力から即座に撤退すべきだ。

これだけの原子力災害を引き起こし、未だ、その収束も予断を許さぬ状況のなかで、あらためて国が原発依存の方針を打ち出し、原発再稼働を促すとは一体どういうことか。

狭い島国で、再び原子力災害を引き起こす可能性はきわめて高い。そうなれば、食べものの生産基盤＝生存基盤を失うことになり、日本の存亡の危機として受けとめるべきである。

第2水俣病を引き起こしてしまった過去をしっかりと見据えれば、国や原電がとらねばならぬ態度はきまっているのではないか。とりわけ戦後の近代化、工業化の破綻をこれ以上拡大してはならない。

経済優先でできた政策を、再び経済優先でその穴埋めをしようとする現政権の失政を止められるのは、もはや司法の権力、判断力によるしかない。

良心に従って正しい判断を下されるよう切望する。

以 上